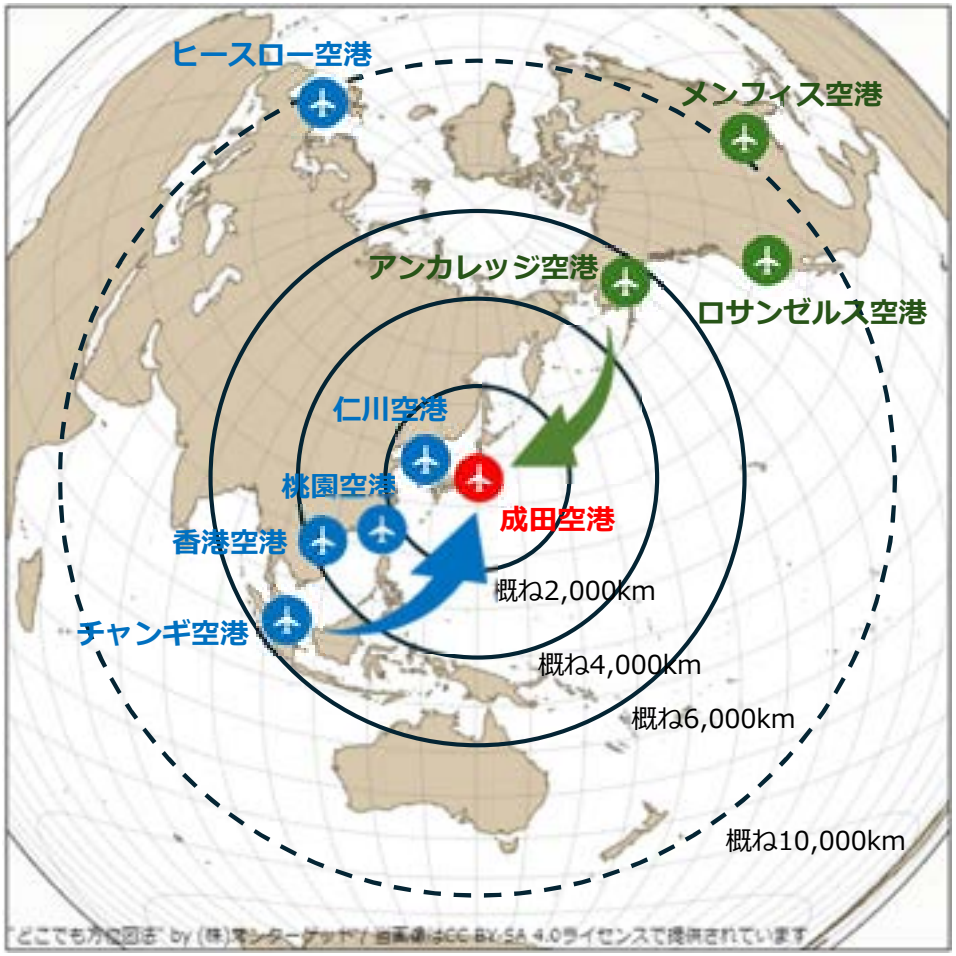
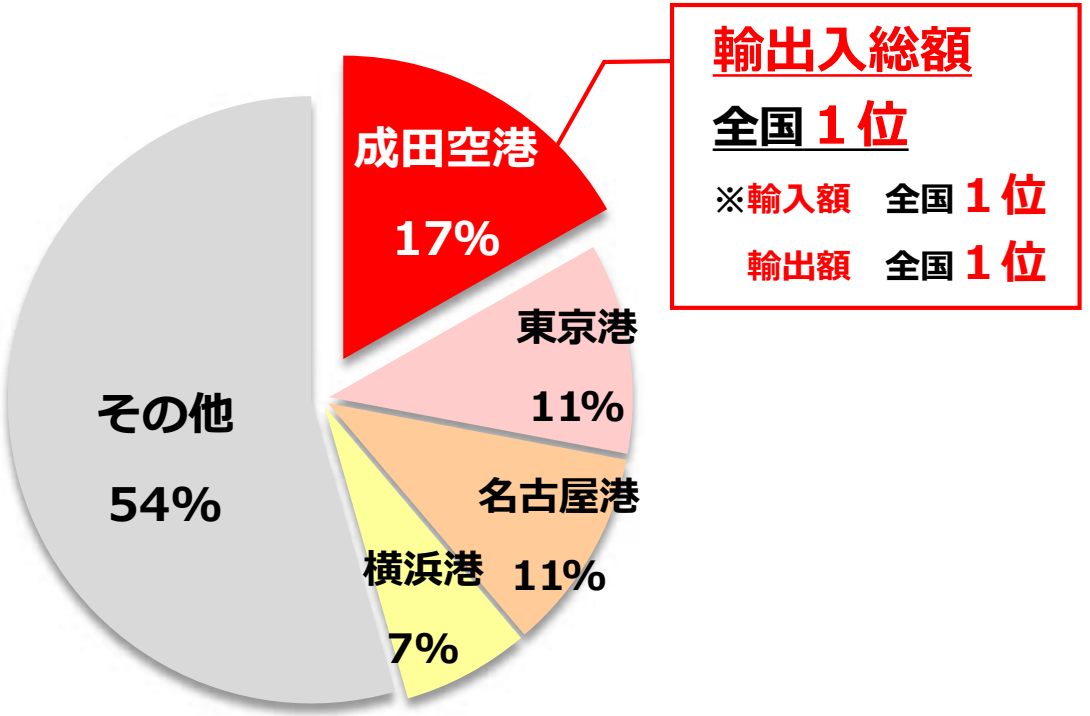
（背景）成田空港の現状

- 日本・首都圏の空の玄関口である成田空港は、北米とアジアの結節点に位置し、世界123都市（国内18都市）* と結ばれ、世界中からヒト・モノ・投資が集まる場所。
- また、輸出額・輸入額はともに全国１位、輸出入総額は全国の約17%を占める日本最大の貿易港である。

*2025年4月6日～4月19日に集計したデータに基づく（成田国際空港株式会社HP）



我が国における輸出入額割合（令和6年）

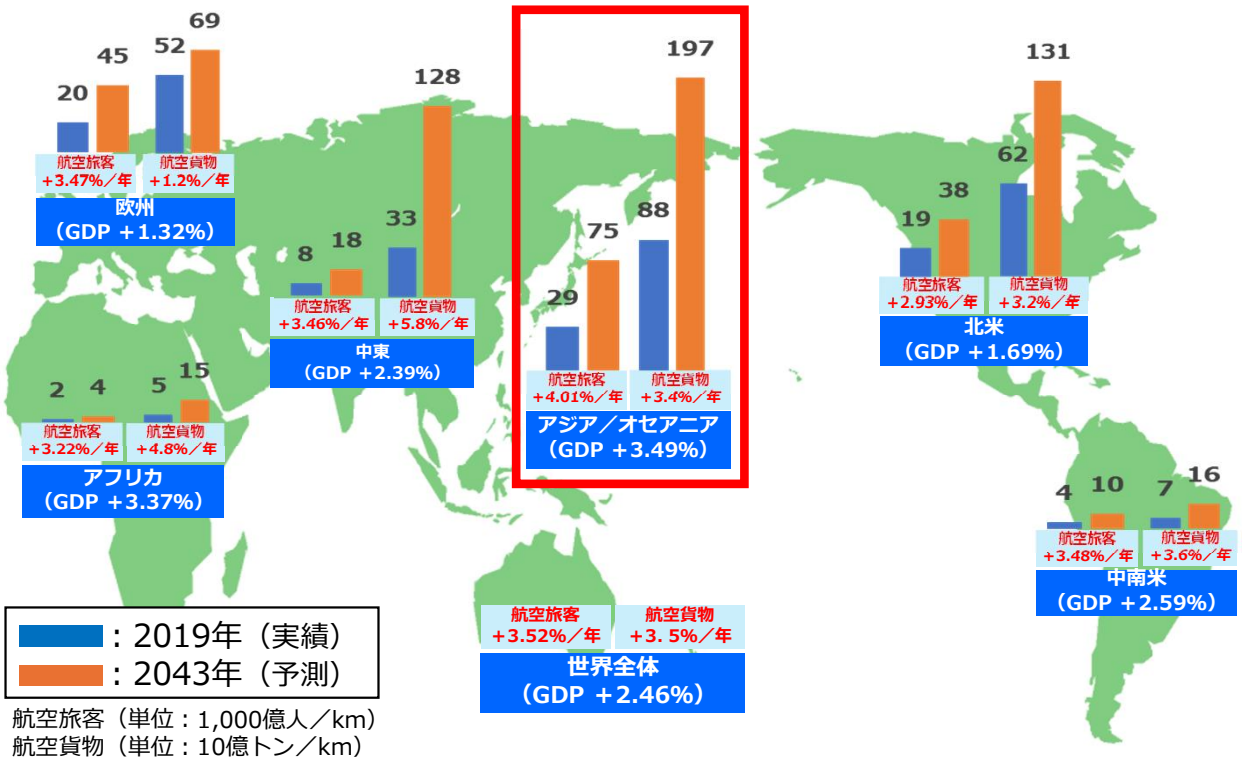


出典：東京税関「令和6年分　成田空港貿易概況（速報）」

（背景）成田空港の果たすべき役割

- 日本の産業競争力強化のためには、空港機能の活用等を通じて、特にアジアにおいて顕著な経済成長を背景とする物流をはじめとした活発な経済活動を取り込む必要がある。
- 羽田空港の年間発着容量は既に約４９万回に達しており、今後、首都圏空港がアジアを中心とする活発な経済活動を取り込むうえで、年間発着容量５０万回への拡大に向けた拡張事業が進められている成田空港の果たす役割は極めて重要となる。

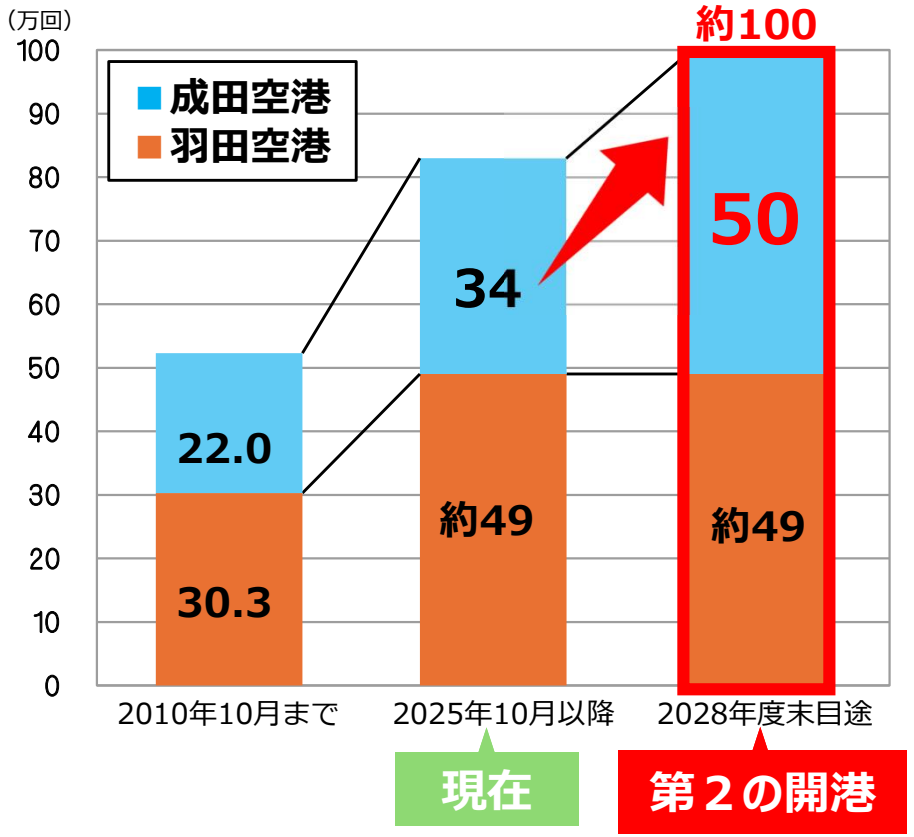
世界の地域別航空旅客・航空貨物需要及びGDP成長率の推移予測（2020～2043）



航空旅客（単位：1,000億人／km）
航空貨物（単位：10億トン／km）

出典：（一財）日本航空機開発協会「民間航空機に関する市場予測」（令和６年３月）

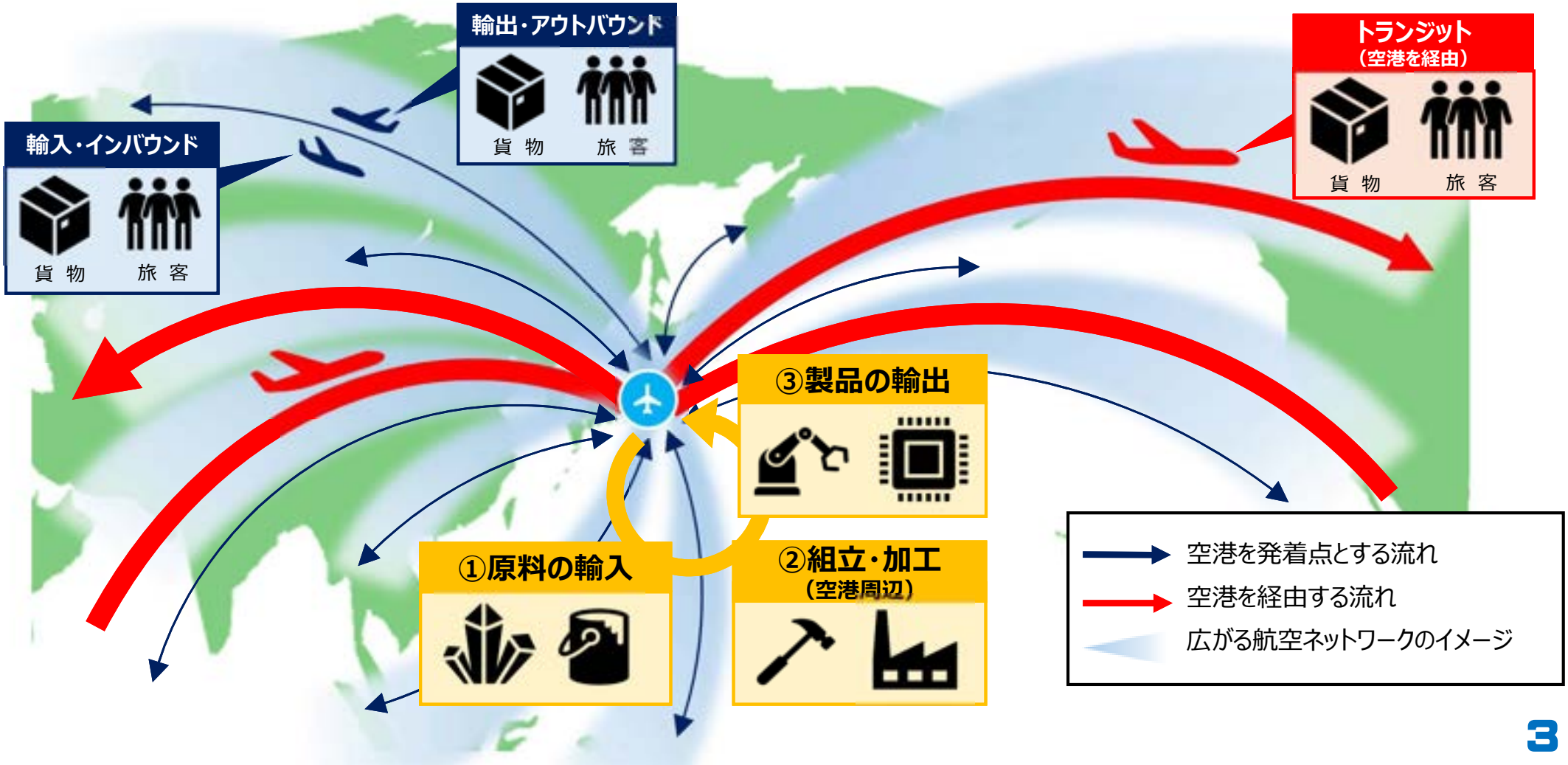
首都圏空港の処理能力



※いずれも年間当たりの回数である。
※回数のカウントは、１離陸で１回、１着陸で１回のため、離着陸で２回とのカウントである。

（背景）空港の活用戦略

- アジアを中心とする活発な経済活動を十分に取り込んでいくためには、空港を発着点とするヒト・モノの流れだけではなく、**空港を経由するヒト・モノの流れを取り込んでいく必要**がある。
- 特に、空港周辺地域における産業集積を図る観点からは、海外から輸入した原料を空港周辺で組立・加工し、製品として輸出するという流れを確立することが重要である。



（背景）東アジアのライバル空港との空港間競争

- 東アジアには、仁川空港（韓国）や桃園空港（台湾）といったライバル空港が存在し、空港の機能強化のみならず、周辺地域における産業拠点形成などについても国家プロジェクトとして推進している。
- 成田空港は、こうしたライバル空港との熾烈な空港間競争を勝ち抜いていかなければならない。
〔成田空港（2024年実績）　旅客数：約3,981万人　貨物取扱量：約197万トン〕

出典：東京航空局「管内空港の利用概況集計表」

仁川経済自由区域の開発計画

出典：仁川経済自由区域庁（一部加工）

*仁川経済自由区域における永宗地区の面積であり、地図の青色部分が該当
（空港敷地と重複する部分あり）
‡ソウル地方空港庁ホームページ出典

- ☑ 政府が空港周辺（仁川経済自由区域）の産業拠点等の形成に関する**開発計画を策定**
- ☑ 政府・自治体が**各種優遇措置を講ずる**ことで、開発事業者や入居企業を誘致

桃園エアロトロポリス構想

出典：桃園航空城公司（一部加工）

- ☑ 政府が空港周辺（桃園エアロトロポリス）の産業拠点等の形成に関する**開発計画を策定**
- ☑ 政府・自治体が連携し、**産業用地の取得・造成を実施**
- ☑ 政府・自治体が**各種優遇措置を講ずる**ことで、入居企業を誘致